

—物の見方、考え方—  
経営に生かす仏教哲学

青木伸雄

### 1. まえがき

釈迦がこの世を去って約2500年、我が国に仏教が伝来して約1450年近くの歳月がたってしまった。

日本人の心のなかに、あるいは日常使われている言葉のなかに「安心」、「上品」「水掛論」、あるいは「お釈迦になる」などと私達は知らずに仏教語を使っている。

それ程、身近にありながらあまり知られていない「釈迦の教え」とは何か、現在の混迷、不確実な社会にあって「釈迦の教えと、その物の見方、考え方」について学び、人間の生き方を考えてみたい。

「南伝大藏教」によると、釈迦は「困苦して、我が証得せる所も、今また何ぞ説くべけん、貧、瞋に悩まされたる人々は、この法を悟ること易からず、これを世流に逆らい、微妙にして、甚深、難見、微細なれば、欲に着し、黒闇に覆われし者は、見るを得ず。かくの如く思択しつつある世尊の心は默然を思い説法せんとは欲したまわりき」と述べており、本来は非常に奥行が深く広い、難しい教えである。

苦学して、大学で電気工学、建築工学、法律学を学び縁あって仏教学を学んだと云ったとて、その本質にふれることは到底不可能であり、あえて浅学の身をかえりみず仏教を学んでいる一人として、私なりの釈迦の教え仏教について述べることにする。

### 2. 仏教經典にみる管理者の理想像

空海の著書「秘藏記」に「水澄浄而照色相、然願風起波浪。波浪即作声。是説法之者」という教えが述べられている。

これは、水がきれいで澄んでいる静かな状態では、色と形のあるものは、全てをそのままに照らしだすが、風が吹き波が立つと解らなくなる。しかし、静動へだたらず同じ水面であることを知るのが、悟りの境地であるということを述べている。

だから、人の上に立つ管理者は、何時変化するか解らない水の表面と同様に人間の心の中も変化するので、同じ人間として相手の心を理解することが重要であると教えを述べているのである。

もっと具体的に考えてみると、管理者に、

#### 1) 地獄の管理の世界

言葉の通じない管理者、文句を云わずにやれといったらやれという管理の世界。絶対服従の管理の世界だが、社員の身分が不安定な現代では、全く通じなくなっている手法であると考えられる。

#### 2) 人間の管理の世界

言葉が通じる管理者の世界。これは、こだわりを捨てれば通じ合える世界である。話したことが進められる管理の世界である。

#### 3) 釈迦の管理の世界

理想の管理者の世界である。以心伝心、いわゆる阿吽の呼吸で上長の命令が部下に伝わる心の管理の世界である。

以上3つのタイプがあるということである。

また、究極の管理者像のあるべき姿として、正法眼藏「菩提薩埵四摂法」には「海の水を辞せざるは同事なり。是の故に能く水緊て海となるなり」と教えている。これは、清濁あわせて飲むからこそ大海となる。互いに協力して助け合うことが大切だと教えている。

そして「明主は人を厭わざるが故に、その衆を成す。人を厭わずといえども、賞罰なきにあらず、賞罰ありといえども、人を厭うことなし」と教えが広く深く続いて説かれている点で、これと併せて実践することが重要だということである。

### 3. 心外無法を知る

人間の心の外に事物が存在しないという考え方の基本が「心外無法」である。

これは、心の外には法いわゆる仏教でいう真理は存在しないという考え方で、良いとか、悪いとか決めて

著者：広島大学生物生産学部講師  
近畿大学産業理工学部客員教授  
日本禅画家協会名誉理事  
中国少林書画院名誉教授  
法号位 法印 禅画位 奥伝  
青木伸雄  
(野風生)  
雅号 樹泉